

106 第5代総長 篠原卯吉しのはら うきち — 名大をひきいた人びと⑩ —

第5代総長の篠原卯吉は、1903(明治36)年、現在の名古屋市に生まれました。県立第一中学校(現在の県立旭丘高等学校)を卒業して第八高等学校に進学、九州帝国大学工学部に入りました。26年、電気工学科を卒業すると同時に講師に任じられ、まもなく北海道帝国大学助教授となりました。

そして1940年(昭和15)年、その創設と同時に名古屋帝国大学理工学部(のち工学部)教授に就任しました。専門は高電圧工学で、日本の第一人者と目され、とくに高周波加熱に関する分野を切り開きました。のちにその技術は、ミシンや楽器などに広く用いられるようになります。しかしその篠原研究室も、やがて空襲を避けて、岐阜県高山市の高山航空工業株式会社などへの疎開をよぎなくされました。

敗戦後の篠原は、西二葉の仮校舎(現在の県立明和高等学校付近)を空襲で焼失し、東山の校舎建設も戦争で不十分なままであった工学部の復興に奔走しました。1953年に

工学部長となった篠原は、残された課題であった高蔵校舎(現在の名古屋市熱田区六野)の東山移転を56年に実現、教養部長をへて、63年7月に学長に就任します。

在任時代の大きな事績は、やはり名大が「たこ足大学」から脱却したことでしょう。1963年に教育学部、64年に大学本部・教養部、66年に農学部が移転を果たし、東山への主要施設の集結がほぼ完了しました。また、日本ヘラルド映画株式会社会長の古川為三郎・志ま夫妻の寄附を得て、64年に古川図書館(現在は博物館等が入っている古川記念館)が落成したことも特筆されます。

任期の後半、名大も大学紛争の時代に突入します。67年にいわゆる医学部紛争が起こり、69年には東山でも大学紛争の嵐が吹き荒れました。篠原学長は対応に苦慮し、健康も悪化したため、7月の任期満了を目前にした5月に無念の辞任となったのです。



1	3	2
4		

- 篠原卯吉第5代総長(1903-1993)。第八高等学校(名古屋市)から九州帝国大学という学歴は、初代から第4代までの総長が、いずれも第一高等学校、東京帝国大学の卒業者だったことに比べると異色といえる。電波技術審議会会長、電気学会会長も歴任。
- 新愛知(中日新聞の前身の1つ)1941(昭和16)年11月7日付夕刊。日本学術振興会の奨励金研究として選ばれた、篠原卯吉教授の「碍子の電氣的性質並にその不良度の研究」が紹介されている。開戦の1ヵ月前である。
- 『名古屋大学概要』(1968(昭和43)年度)の表紙の写真。大学本部、6学部、教養部などが集結し、現在の東山キャンパスの骨格ができています。
- 「篠原教授御退官記念号」として発行された、名古屋大学二葉会(工学部電気系学科同窓会)会誌『FUTABA』第3号(1969年12月)。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは総務課(基金推進室)あて(電話 052-789-4993, 2011、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp) お願いいたします。